

地域課題・目指す将来像

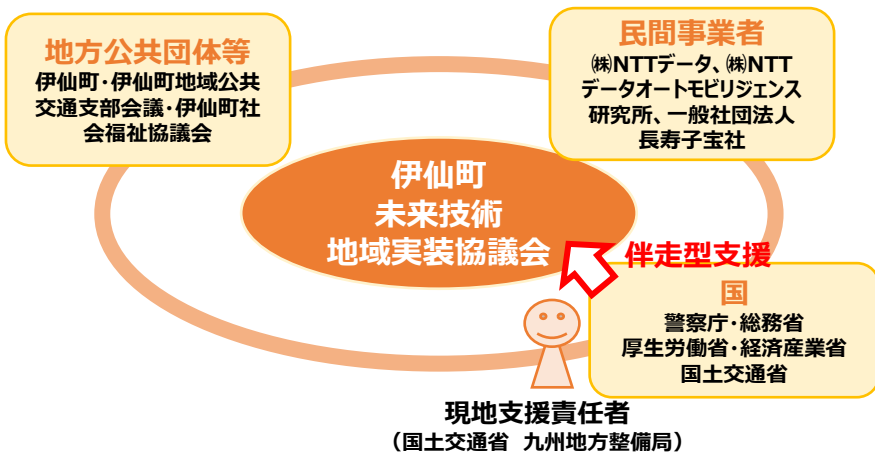
地域課題

- 人口減少に伴う労働力不足や公共交通の維持が困難な状況の中で、**高齢者や児童生徒の交通手段の確保が課題**
- 小規模集落では「集落巡回バス」を委託運行し、交通弱者の足としているが、**多額の費用が掛かり財政を圧迫している**
- 「バリアフリーテレワークセンター」（高齢者・障がい者雇用促進の拠点）への**運転免許を持たない方の移動手段が確保出来ておらず、送迎手法の確立が喫緊の課題**

将来像

- 年齢・性別・障がいの有無にかかわらず、**すべての人が活躍するまちづくり**

推進体制

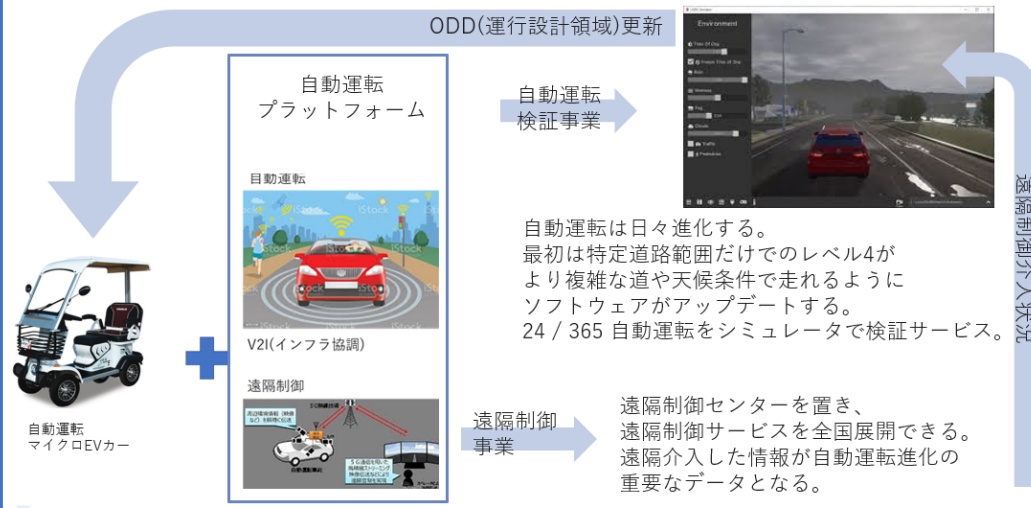


課題解決に向けた取組

高齢者、障がい者でかつ運転免許を持たない方および交通弱者向けの**安心・安全なレベル4自動運転パーソナルモビリティを導入し、自宅から目的地までのドアツードアの柔軟な移動サービスを実現。**
⇒**巡回バスから新たな移動・送迎手段への転換**

- **高齢者・障がい者向けの自動運転パーソナルモビリティ導入事業**
 - ・ **自動運転パーソナルモビリティ**
 - ・ ドアツードアの柔軟な移動サービス
 - ・ **IOWN技術**を活用し超低レイテンシな**遠隔走行サービス**

(写真・図：伊仙町提供)



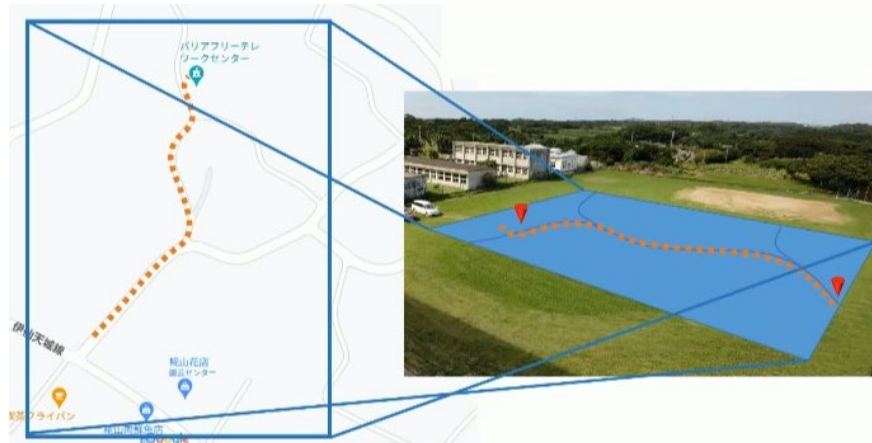
2022年度の
主な取組

- 自動運転ソフトウェアの開発
- テストコースでの走行テスト

取組内容

テストコース実証実験（2022年9月26日～10月17日）

- 地域課題である、人口減少に伴う労働力不足や公共交通の維持が困難な状況における高齢者や児童生徒の交通手段の確保を見据えて、生活道路を低速で移動する自動運転に向けた小型モビリティサービスをイメージし、テストコース上の実証実験を実施
- 今後の公道実験対象予定の伊仙手天城線からバリアフリーテレワークセンターまでの道のりを旧農業高校のグラウンド上にコースを再現し、研究員が乗車して走行を実施
- 車両が自動で障害物（自転車）を認識して停車、自動走行が難しくなった場合に遠隔操作に切り替えて走行を持続する、遠隔からの自動運転ソフトウェアの更新、車両が自動で障害物を回避して目的にまで走行する、等の検証を実施
- 地域住民に向けて自動運転走行のデモンストレーションを実施（雨天のため旧農業高校併設の武道館で実施）



グラウンド上にコースを再現



研究員が乗車して走行



武道館で実施



自動走行が難しくなった場合に遠隔操作